2019年10月　書籍

「地方創生大全」木下斉

〈概要〉

地方再生・活性化の取り組みには、「何に取り組むか＝事業」、「限りある資源をどう活用するか、足りない資源をどう集めるか＝資源」、「どう取り組むか＝組織」の三つの要素があり、これらが全て機能して、初めて成立するものだと著者は考えている。本書では、事業、資源、組織という三つの要素について①ネタの選び方②物の使い方③人の捉え方④金の流れの見方⑤組織の活かし方、から地域の構造問題を整理し、問題点を指摘している。本書の要点としては、①地域活性化の先進地域で行われている取り組みを、そのまま自分たちの地域で導入しようとしても失敗するだけである。②地方だからこそ、他の地域と異なることに取り組んで需要を開拓していくべきである。そうするためには、成果重視の評価制度を導入し、新たな取り組みを推奨するべきである。③年から地方へと人口を移動させるという発想では、地域活性化に結びつかない。④地域活性化に必要なのは、短期的な金ではなく、継続的に稼げる仕組みである。⑤地域の人が自ら考え、実践し、失敗から学んで再挑戦することで初めて地域の課題を解決しうる知恵は生まれる。

〈感想〉

学生として、一つの市の地方創生に関わらせていただいているので、何かの指針になるのではないかと考えて、この本を読んでみた。要点としてまとめたところが特に印象に残った。